

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770104267		
法人名	社会福祉法人すみれ福祉会		
事業所名	グループホーム花もめん		
所在地	香川県高松市太田下町2020番地1		
自己評価作成日	平成22年7月12日	評価結果市町受理日	平成21年9月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.kagawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3770104267&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成22年8月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>特別養護老人ホームに併設しており、リハビリ機器を利用した訓練室を利用したり、4階の地域交流センターでは、ボランティアの方の訪問にて歌や踊り等を楽しまれている。また、地域の防災訓練やお祭り、行事等にも参加し、地域の方々との交流をしている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

<p>グループホームは、特別養護老人ホームを中心とする社会福祉法人の併設事業所として開設されている。利用者は併設施設の訓練室を活用することで機能訓練をしたり、地域の人々が参加する交流センターで行われている行事等で地域交流がもてている。 職員の「グループホームが好きで、楽しく仕事できている」という笑顔がすばらしい。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

グループホーム花もめん(上町)

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で話し合い、「どんな時も笑顔で！」を理念とし、地域の方との交流により、笑顔で過ごせるよう取り組んでいる。	「どんな時も笑顔で」の理念のもと、管理者・職員は日々のケアを実践している。職員は「笑顔は利用者に不安を与えないように、自分自身には心を落ち着かせるために」という意識で実践している	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(老人会、祭り等)に参加したり、地域の方が併設の地域交流センターを利用する際に交流している。	近隣保育園や高校生との交流や地域の方が併設の地域交流センターでの行事に参加する際に交流している。また、地域の夏祭りにも参加して楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2カ月に1回、地域の方を対象に家族介護教室を開催し、その中で認知症や介護についての話もしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、運営推進会議を行い、業務報告やサービス向上において意見をもらっている。その意見をもとに、地域の祭りにも参加した。	運営推進会議では報告や情報交換をよく行っており、その情報を活かしたサービスに取り組んでいる。	メンバーが変更した時には運営推進会議の意義や評価を伝え、更なるステップアップにつなげる協力者やモニター役になってもらえるように事業所の働きかけが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議において高松市介護保険課、地域包括支援センター担当者と話し合っている。	母体法人が様々な課題をしっかりと支援し、完結している。市町とは運営推進会議での話し合いのみに終わっている。	実践現場と施策との整合性を図るためにも、運営推進会議だけでなく折に触れ利用者の暮らしやニーズを具体的に伝えるなど、市町村との関係を深めることが期待される。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1階にある玄関は鍵をかけていない。併設施設との入口は分けている。3階のグループホームの入口、居室ともに鍵はなく、職員の見守りで対応している。	勉強会や研修会に参加して身体拘束の弊害を理解している。利用者の状態変化について、例えば車いすを使用する状況になった時にも、家族に説明して納得を得るなど、対応には細心の注意を払っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い、虐待防止について学んでいる。		

グループホーム花もめん(上町)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月の勉強会の中で制度等の説明を行い、理解の促進と活用に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度面接を行い、重要事項説明書にて十分に説明し話し合っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の暮らしぶりについて電話で家族に報告したり、独自の通信を作成し一人ひとりの生活の様子や近況等を伝えている。また、家族が面会に来られた際に話し合いの場を持ち、ケアに反映させている。	担当者が2カ月1回通信発送時に手紙を同封している。面会時に家族に必要なお知らせをするが、来訪者が重なると対応に苦慮する時もある。面会者が多く訪れる訪問しやすい事業所であることがうかがえる。また、今年10月から家族会を開催する予定である。	職員の異動や行事予定などの家族への周知方法については、掲示板や通信などの工夫をしたり、家族会の開催に、今後期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の勉強会、職員会後に話し合いの場を設け、意見や提案について話し合っている。	当該事業所で毎月1回主幹会議が開催され、職員の意見や提案を報告したり、改善したりしている。事業所内でのミーティングは月2回開催している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勉強会、職員会議等を通じ、職員の勤務状況の把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修など関連する各種研修に参加し、職員一人ひとりの能力向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在のところ同業者との交流の機会はないが、今後検討する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には他の人へ紹介し、また、馴染むまでの間頻繁に話を聞くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に見学を行い、ホームの雰囲気を実際に見ていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、実情や要望をもとに必要な支援を見極めている。また、徐々になじんで利用できるよう工夫している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を洗ったりたむ等の手伝いを一緒にしたり、味噌汁づくりを一緒にする等、利用者と共に過ごしながら学び合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時やお便り、電話等で状況を報告し、相談しあえる関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力により、行きつけの食堂や美容院、スーパー等に行けるよう支援している。また、4F地域交流センターで行われる太田南老人クラブの会合時等に会いに来てくれている。	馴染みの人が、同法人施設内の地域交流センターでの会合時に事業所に立ち寄ってくれている。家族の協力で行きつけの食堂や美容院、近くのスーパーで自分で買い物する等の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員や入居者同士で話し合い、役割分担している。作業中も職員と共にコミュニケーションを取りながら暮らしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の施設へ移動しても面会に行っている。病院へ入院した場合も面会に行き経過を見守っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時間の希望や嗜好調査など入居者の思いや希望の把握に努めている。訴えのできない利用者には、家族に聞くようにしている。	日々の会話や関わりの中で一人ひとりに思いや意向を聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活の様子などを本人や家族から聞き、本人の思いが叶うよう工夫している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が一人ひとりの暮らしの流れに合わせ、役割、心身状態の把握に努め、支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回、職員全員(夜勤1名除く)が集まり、介護計画についての話し合いをしている。受け持ちを決め、担当者は事前に本人と家族の意見を聞き取りしている。その際、本人がより良く暮らすための課題や改善点を出し合い討論している。	担当者が事前に本人・家族に意見や要望を聞き、本人がよりよく暮らせる視点で職員全員で話し合って介護計画を立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が気づいたこと、実践してみてもの結果等を連絡簿に自由に書き込んでもらい、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設のリハビリ室の利用や地域交流センターの交流事業に参加している。		

グループホーム花もめん(上町)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の婦人会主催の行事でボランティアの人と交流したり、手助けを借りて参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望を聞き、これまで通っていたかかりつけ医を受診できるようにしている。協力医療機関への受診の他、その他医療が必要な場合適宜対応している。	かかりつけ医は本人・家族の希望にそっている。通院時は家族との情報交換も行っている。認知症専門医による訪問診療もあり、相談支援が受けられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護職に状態を報告し、かかりつけ医や協力医療機関への受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には定期的に面会し、病院関係者や家族と話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を聞きながら、医療機関とも話し合い方針を決定している。	運営推進会議でも安らかな死や看取りについて家族の意見もだされ、事業所で終末期を迎えたいという希望もあり、事業所への信頼関係がうかがえる。既に看取りの経験も経ている。	終末期をどう迎えるかは、早期から機会あるごとに本人・家族と話し合うことで、相互の不安が緩和される。終末期の看取りについて、代表者も交えて話し合いをし、体制を整えることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についての内部研修を行ったり、マニュアルを作成し、他の部署との連携を取れるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員及び入居者で避難訓練を年2回実施している。避難する際は併設施設への移動、ベランダや階段を使用して1階へと誘導するようマニュアル化している。	避難訓練は併設施設全体で年2回実施している。消防署の協力を得て、災害発生を想定して避難誘導や消化器の使い方の訓練をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー確保のため、居室へ入る際にはノックをしたり、言葉かけについては傷つけないように尊厳を持って対応している。	プライバシーを傷つけるような言葉かけや態度はなく、視線が利用者と近い位置にあり、優しいトーンで声かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中から希望や好みを引き出し、信頼関係を築いて自分で決められるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合わせたケアができるように、希望を聞くだけでなく、入浴やリハビリ、レクリエーションなど利用者自らが希望を言うよう工夫し、その声に最大限こたえている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好きな洋服を起床時、入浴後に着ていただいている。希望者は地域の理容師さんに来てもらい散髪してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は併設施設の厨房で作り、盛り付けの準備、食事、片付けを職員と一緒にしている。週2回ご飯・味噌汁作りを利用者と一緒にしている。おやつ作りは本を広げて何をやるか決める等工夫している。	併設施設の厨房で出来上がった食事を器に盛り付けたり片付けなどを利用者の状況に合わせて行っている。また、月1回のおやつ作りは利用者が何をやるか決め、週3回程度ご飯・味噌汁作りも職員と一緒にやるなどしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好調査を行い、栄養士が献立を決めている。また、選択メニューの日を設け、利用者の好みを反映できるよう配慮している。摂取状態が悪くなればすぐに食事形態を変更している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを実施している。義歯は夕食後洗浄、消毒している。		

グループホーム花もめん(上町)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握して、排泄自立に向けて声かけ、誘導、見守りしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	トイレ誘導時に腹部マッサージをしている。また、その人に合ったコーヒーやヨーグルト等で排便しやすいように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望を聞き、午前中と昼から夕食前までの間で、マンツーマンでゆっくりと入浴している。一人で入浴出来ない方は、職員2名で入浴介助している。	入居者の希望にそって入浴の時間をきめている。車いす利用者等の入浴は職員2名で介助している。併設施設に器械浴槽もあるが、そのために移動しなければならないなど制約もあり、活用には至っていない。	利用者の介護度が上がっている中で、入浴介助に係る職員の負担を少なくする手段とともに、希望があれば入浴日を増やすことについても検討されたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のリズムを大切に支援している。一人ひとりの希望に沿って臥床時間を支援している。不眠がある時は、職員と話をするなど工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認は受け取った時と飲む時に確認している。目的や副作用、用法、用量について看護師より情報提供してもらい、職員誰でも見られるようファイルを作成し管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の役割として、食器洗いや掃除、洗濯物たたみをしている。また、月1回の移動売店で、好みのお菓子や漬物を買ったり、週1回地域のパン屋さんの移動販売で買ったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力により、定期的に外泊したり、外出したりしている。	近隣に新しくスーパーができ、買い物を楽しんでいる。施設の戸外も広く散歩ができる。	

グループホーム花もめん(上町)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を管理している方もおり、一人ひとりの希望や状態に合わせて対応している。また、家族と買物に出掛けたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方もおり、掛けたい時に電話したり、手紙を書いたりしている。1F事務所内にはポストを設置している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは中央吹抜けから自然光を取り入れ、適度な明るさを確保している。全体的に民家風の造りにしてあり、浴室は家庭浴槽を使用している。	共用生活空間は不快となるような音や光もなく利用者はゆったりと過ごしている。 構造上、ホーム専用の入り口はあまり利用されておらず、併設デイサービスの中を抜けて、ホームに訪れる人が多い。居間で過ごしていると適度の静けさが保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子、テーブル、ベンチ等で入居者同士が思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使っていた物、家にある使い慣れた物を持ち込まれている。	居室は和室やベッドになっている。それぞれの好みで馴染みの物を持ち込んで、その人らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、ホールに手すりを設置している。浴室内には滑り止めマットを設置している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「どんな時も笑顔で！」を理念とし、地域の方との交流により、笑顔で過ごせるよう取り組んでいる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(老人会、祭り、防災訓練)に参加したり、地域の方が併設の地域交流センターを利用する際に交流している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2カ月に1回、地域の方を対象に家族介護教室を開催し、その中で認知症や介護についての話をし、支援に役立ててもらっている。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、運営推進会議を行い、業務報告やサービス向上において意見をもらっている。地域の行事等への情報ももらい、当日の受け入れ体制の協力もお願いしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議において市町村担当者と話し合っている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を行うなど、職員全員で取り組んでおり、現在身体拘束はしていない。 マニュアルを作り、具体的な行為等を理解し、ケアにあたっている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行うなど、虐待防止関連法について学んでいる。また、日常において利用者のちょっとした変化にも注意するよう努めている。

グループホーム花もめん(下町)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月の勉強会の中で制度等の説明を行い、理解の促進と活用に努めている。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度面接を行い、十分に説明し話す機会を持っている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた際、必ず家族の方と話すようにしている。また、電話やお便り等で報告や相談をし、意見をもらいケアに反映させている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のミーティングの他にも、その都度何かあれば意見や提案をもらっている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勉強会、職員会議等を通じ、職員の勤務状況の把握に努めている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修など関連する各種研修に参加し、職員一人ひとりの能力向上を図っている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在のところ同業者との交流の機会はないが、今後検討する。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に面接を行い、本人から話を聞くようにしている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に面接を行い、家族から介護の悩みや不安を聞くようにしている。また、家族の思いを受け止め、利用後も話し合う時間を設けている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、実情や要望をもとに必要な支援を見極めている。また、徐々になじんで利用できるよう工夫している。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を洗ったりたたむ等の手伝いを一緒にしたり、味噌汁づくりを一緒にする等、利用者と共に過ごしながら学び合う関係を築いている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時やお便り、電話等で状況を報告し、相談をしあえる関係を築いている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力により、行きつけの食堂や美容院、スーパー等に行けるよう支援している。また、4F地域交流センターで行われる太田南老人クラブの会合時等に会いに来てくれている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に観察し、職員全員で情報交換し、食事の席の変更や役割分担等、孤立の無いよう支援している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、併設施設内を利用して いる時は面会に行ったり、家族と話をして している。病院へ入院した場合も面会に行き 経過を見守っている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時間の希望や嗜好調査など入居者の 思いや希望の把握に努めている。訴えので きない利用者には、これまでの生活を家族 から聞き、本人の思いが叶えられるように している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前のアセスメントや日々の関わりの中 で把握に努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員で入居者の暮らしの流れや役 割、心身状態の把握に努めている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回、職員全員(夜勤1名除く)が集ま り、介護計画についての話し合いをしてい る。受け持ちを決め、担当者は事前に本人 と家族の意見を聞き取りしている。その際、 本人がより良く暮らすための課題や改善点 を出し合い討論している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を、午前・午後・夕食後・夜間 に分けて記録しケアチェックを行っている。 また、変化があれば申し送り表に書き、職員 間で情報を共有している。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設のリハビリ室の利用や地域交流 センターの交流事業に参加している。また、 様態の変化に合わせてグループホームまた は併設施設を利用している。

グループホーム花もめん(下町)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の婦人会主催の行事に参加し、地域の方のボランティアを受けた。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望を聞き、これまで通っていたかかりつけ医を受診できるようにしている。協力医療機関への受診の他、その他医療が必要な場合適宜対応している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護職が毎日グループホームにも来てくれており、状態を報告する等常に状態を把握し適切な指示をもらっている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には定期的に面会や連絡を取り、病院関係者や家族と話し合っている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を聞きながら、方針を決定している。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についての研修を行ったりマニュアルを作成しており、他の部署との連携も図るようにしている。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員及び入居者で避難訓練を年2回実施している。避難する際は併設施設への移動、ベランダや階段を使用して1階へと誘導するようマニュアル化している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は『人生の先輩』という意識を持ち、職員会や勉強会で尊厳についての話し合いもしている。訪室時のノックや言葉遣い、同性の入浴介助等対応している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者として少しでも多く関わり、馴染みが深くなることで本人が思いや希望を表せるようにしている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合わせたケアができるように、希望を聞くだけでなく、入浴やりハビリなど利用者自らが希望を言えるよう工夫し、その声に最大限こたえている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前など自分で洋服を選んでいる。希望者は地域の理容師さんに来てもらい好みの髪型にしてもらっている。外出時には希望により化粧もしている。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は併設施設の厨房で作り、盛り付けの準備、食事、片付けを職員と一緒にしている。週2回ご飯・味噌汁作りを利用者と一緒に行っている。また、利用者の希望でおにぎりにしたり等好みに応じている。月1回のおやつ作りは本を広げて決めている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者全員がほぼ全量摂取されている。また、水分も1日1500cc摂取されている。水分はその都度希望を聞き、作っている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを実施している。必要に応じてスポンジブラシにて介助をしている。義歯は毎晩入れ歯洗浄剤にて洗浄している。

グループホーム花もめん(下町)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各時の排泄記録をつけ、その人の排泄の間隔やそわそわする等の癖を考慮し個々にトイレ誘導を行っている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	トイレ誘導時の腹部マッサージや適度な運動を行っている。また、水分やヨーグルト等で予防に取り組んでいる。排泄記録により排便のコントロールに役立てている。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望を聞き、マンツーマンでゆっくりと入浴できるようにしている。希望を聞いて昼から夕食前までの間に入浴している。また、暑い季節や、排便が失敗した時は清拭やシャワー浴をするなど工夫している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のリズムを大切に支援している。一人ひとりの希望に沿って臥床時間を支援している。不眠がある時は、職員と話をするなど工夫している。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認は受け取った時と飲む時に確認している。目的や副作用、用法、用量について看護師より情報提供してもらい、職員誰でも見れるようファイルを作成し管理している。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	エプロンやおしぼりたたみ、洗濯、食器洗いなど一人ひとりにあった役割分担をしている。日曜日の昼からは皆で掃除やシーツ交換等、利用者の状況に合わせてしている。週1回近所のパン屋さん、月1回の移動売店にて好きなものを選んでる。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、個々に散歩に行っている。季節ごとの外出や、地域の行事にも出かけている。最近近所にスーパーが出来、おやつ等の買い物にも行っている。

グループホーム花もめん(下町)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行った際は、出来る人にはレジで支払いをしてもらっている。また、お参りではお賽銭をあげられている。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1F事務所内に郵便ポストを設置しており、自由に手紙が送れている。電話も1Fの公衆電話にて自由にかけている。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は民家風の造りにしてあり、天井も高く窓から程よく光が入っている。ユニットごとに利用者が作成した手作りの作品を飾っており、暖かい雰囲気になっている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子、テーブル、ベンチ等で入居者同士が思い思いに過ごしている。仲の良い人の居室で過ごされている時もある。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとチェストは備え付けで、使いたない生活用品を持ちこまれている。自宅で使っていた椅子やテレビ、趣味の三味線をおいている人もいる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、ホールに手すりを設置し、浴室内に滑り止めマットを設置している。ホールには大きな時計、日めくりカレンダー、居室内にもカレンダーを貼っている。